

卒業五十五周年同窓会報告

卒業五十五周年同窓会

内容充実の記念同窓会

埼玉大学教育学部昭和四十三年三月卒業生 山下 武彦

私たち昭和四十三年卒業生の同窓会は、初回が「卒業二十五周年記念同窓会」で、平成五年六月、浦和の「武蔵野会館」にて八十四名の参加を得て行われました。二回目は「退職時期同窓会」として、平成十八年十二月、県庁近くの「東晶大飯店」にて七十名参加のもとに開催されました。

令和二年度からは、校友会本部のお骨折りにより「卒業後五年ごとと同窓会を開催することができ、校友会から運営費等の補助を受けることができる」ことになりました。その実施該当年は、卒業五十五周年(七十八歳頃)を以て一応の区切りとすることとなりました。丁度その節目の年に該当する私たちは、早速発起人会を設けて準備会を開き、会員名簿で住所が判明する二百十四名に案内状を送付しました。宛先不明で返送されたはがきもありましたが、三十名の方から参加申し込みをいただきました。

令和五年九月十三日、残暑厳しい日でしたが、「ホテルブリラン

テ武蔵野」にて、埼玉大学教育学部昭和四十三年卒業「卒業五十五周年記念同窓会」が開催されました。十七年ぶりのなつかしい再開でした。開会に先立ち記念撮影、そして鬼籍に入られた三十四名(事務局配付資料)の仲間に黙祷を献げました。

幹事の新井功さんの司会により開会し、発起人代表の稲葉昭一さんが挨拶し、この会の趣旨及び歴史等を述べました。次に校友会顧問・事務局長の金子美智雄様から祝金・補助金が発起人代表に贈呈され、幹事の加藤忠邦さんの乾杯の発声の後、歓談となりました。食事中、この会の会員でもある金子美智雄さんが、ご自身所蔵の写真を私たちの学生時代にスポーツを当てスライド編集し、浦和市や埼玉大学及び同教育学部の在りし日の姿や変遷を紹介くださいました。また、大学の卒業記念アルバムから、恩師の方々をはじめ私たちの若きなつかしい写真の数々をアップで映し出してください、会場は大いに盛り上がりました。

食事が済むと「一人一言の近況報告」となり、二分以内でどの司会者からのお願いでしたが、中学校課程から小学校課程への順で、現在住んでいる所や日常取り組んでいること等について語るうちに話したいことが多く、二分ではとても足りませんでした。与えられた仕事に日々取り組んでいる方、ボランティア活動に励んでいる方、健康づくりでウォーキングやストレッチ等に汗を流している方、趣味で美術や音楽活動に打ち込んでいる方、家庭の事情で老々介護に尽くされている方等々、それぞれ自分のやるべきことに励んでいる



ようでした。

あつという間の二時間半でしたが、最後に校友会金子顧問から、会員名簿について、終身会員について、ホームカミングデーへの誘いについてのお知らせがあり、発起人代表から、この同窓会の会計報告と、残金は「埼玉大学基金」に寄付することの了承を得て、幹事の本田重次郎さんの閉会のことばで、お開きとなりました。埼玉大学基金のページに掲載されることです。なお、この同窓会の発起人は、稲葉昭一を代表として、新井功、大菅建男、大岡一雄、大澤洋子、加藤忠邦、加藤俊明、金子美智雄、上前田徹郎、嶋野道弘、須田善博、沼田喜代、吉澤操、富沢武男、小森弘、小森信子、野沢優、藤間建夫、本田重次郎、山下武彦が務めました。



卒業五十周年同窓会

コロナ禍で開催が危ぶまれた中での

青春真っ只中の学生時代回想録

埼玉大学教育学部昭和四十八年三月卒業生 大岡 由男

令和五年十一月十一日、ホテルブリランテ武蔵野において、埼玉大学教育学部昭和四十八年三月卒業生の「卒業五十周年同窓会」が開かれました。当日は、前日までの季節外れの暑さと打って変わり、「木枯らし一号」が吹き荒ぶ曇り空となりました。コロナ禍の不安が拭いきれない中、ワクチン接種の徹底と患者数の減少に伴い、扱いが五類に移行し、何とか開催に漕ぎ着くことができました。出席者は、激動の人生をたくましく生き抜いた精鋭二十八名でした。

開会に先だつての記念撮影後、司会の小林博武幹事の発声の後、武田誠幹事の開会の言葉で開会しました。続いて、大岡由男代表幹事より開催の趣旨とこれまでの経過説明、苦労話、健康に恵まれ出席できた喜びと家族への感謝の気持ちが強調された挨拶がありました。続いて、ご来賓の教友会副会長大澤利彦様からご祝辞をいただきました。卒業五十周年という記念となる同窓会開催のお祝いとともに、学年幹事をはじめ、準備・運

営にあたった会員への慰労と感謝の言葉もいただきました。また、私たちが大学在学中の世相等にも触れていたいただき、当手を振り返るきっかけになりました。教友会として会員相互の親睦を図り、本会の目的達成に向けて「卒業五X周年同窓会」を開催できるように取り組んでおり、まさに本日がその会の一つであることを話されました。十一月二十五日(土)埼玉大学で開催される「ホームカミングデー二〇二三」に触れ、多くの方が参加されるよう案内もいただきました。そして、「人生百年時代、ご出席の皆様のご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます。」との言葉で結んでいただきました。

次に、齋藤一雄幹事より乾杯の発声があり、すぐに気分は学生当時に戻り、あちこちで和やかな懇談が始まりました。何の遠慮も気遣いもせずに、青春を謳歌しているかのような笑顔があふれました。また、教職時代の苦労話、定年後の暮らしぶり、病に悩まされていたこと、孫の自慢話、年金生活の

現状と課題など、枚挙にいとまがありませんでした。幹事への要望として、女性の参加者が少ないので参加しやすい工夫をしてほしい、集合写真やスナップ写真を送付してほしいなどがありました。本会は楽しさに溢れ、十二分に語り合え、青春的一幕を蘇らせることができ、大いに食べて飲んで、満足しました。このような楽しい会は何度やってもよい、五十五周年同窓会も絶対にやってほしいという要望も出され、万雷の拍手がわきました。

懇談後、第一の締めが富田法昭幹事、中締めは中田泰容様、大締めは岩崎保様に締めてもらいました。一発締めから八丁締めと賑々しく盛大に締めることができました。最後に、中村幸一幹事により今回の同窓会幹事が紹介され、次回の開催に向け、更に大勢の方に出席していただけるよう、本日の参加者が二人以上の同窓生を誘って参加していただけると、もつとにぎやかな会になるのではないかと、この提案もありました。そして、閉会の言葉となりました。

今回、このような盛大で楽しい同窓会が開催できたのは、幹事とともに、気持ちよくお手伝いをお引き受けいただいた方々の誠意によるものです。越田直子さん、芦野眞理子さんには、受付を始め、

会計までもお手伝いをいただき、ありがとうございました。また、何とんでも教友会の役員の皆様のご誠意に溢れた取組に感謝しております。同窓会名簿、案内状発送等の費用の援助など、細かなご配慮に心より感謝申し上げます。

今後は、コロナ感染症の心配をせず、安心して参加できるようになることを願ってやみません。次回、卒業五十五周年同窓会にも大勢の同窓生が健康で明るく元気に集うことができることを祈念し、「卒業五十周年同窓会」の報告とさせていただきます。



退職時期同窓会

史上SAIDAIの同窓会

〱円熟した絆が繋がった日〱

埼玉大学教育学部昭和六十年三月卒業生 森 裕子

初冬とは思えない汗ばむほどの陽気となった令和五年十一月十九日曜日、鮮やかに染まった街路樹と美しく調和するブリランテ武蔵野の二階「エメラルドの間」において、「私たちの同窓会」は開かれました。

り上回るそうで、文字通り「史上SAIDAIの同窓会」が誕生しました。

思い起こせば一年前、このブリランテで開催された教友会総会で顔を合わせた理事が、令和二年度にシステムとして確立された「卒業五X周年同窓会」及び「退職時期同窓会」に則り、令和五年度が開催の年であること、様々な制約を強いられたコロナ禍も収束の様相を呈していることから考えて、その日のうちに日程及び会場を決めたのでした。それから少しずつ準備を始め、母校の名に懸けて「史上SAIDAIの同窓会」にしようというキャッチフレーズを掲げ、早々にSNS上にグループを立ち上げ、郵送の案内状に加え、SNSを駆使した「クチコミ」が広がり、八〇名に迫る参加の申し込みを得ました。これは、教友会の同窓会としては平均的な数字をかな

会に先立って、まず記念撮影を行いました。受付後は、専攻・専修ごとの座席で、すぐに旧交は温められ、すでに会場の空気は盛り上がりつつありました。理事の杉田さんが「一列目は、松澤先生を中心に理事が座ってください。二列目は、身長がやや低めの人、三列目は：全部で四列なので、一列二十人目安ですよ」と声をかけると「は〜い」「わかりました！」返事もよろしく皆が集合写真隊形にスムーズに動いていきました。シャッターが押され始めると誰かが「緊張しているんじゃないの?」と声を発し、どっと笑い声が上が

り、誰もがこの会を心待ちにしていたうれしさあふれる撮影となりました。

嶋さんの再会の思いがこもった開会宣言、理事代表の中野さんから「四年越しの計画が今、実現しました。」と感極まりながらの挨拶の後、ご来賓である教友会会長

の松澤勇治様よりご挨拶をいただきました。はじめにたくさんの参加で開催されたことに御祝いと感謝の意が述べられ、「還暦を過ぎた皆さんは、『成熟』ではなく『円熟』した人生を歩んでいる。皆さん、『成熟』と『円熟』の違いはお分かりですか」と問われました。

「『円熟』は、ただそこまで到達した『成熟』とは違って、行きついたり戻りながら『品格』や『ゆたかさ』を兼ね備えている」と教えていただきました。年を重ねることをこのように捉え、退職期を経たこれからの人生の道に新たな目標と希望を与えていただきました。

さて、理事の杉田さんがはじけるように乾杯の発声をした後は、テーブル内はもちろん、席を移動して歓談の嵐でした。理事が企画した、「専攻・専修ごとに前に出て代表が近況をスピーチする」場面では、どうしても内容が盛りだくさんになってしまい、司会の安部さんが、来嶋さんが「誠に恐縮ですが、お時間は、二分以内厳守でお願いいたします!」とやむなく制す場面もありました。楽しい時間は、瞬く間に過ぎていき、理事の新井さんが万感の思いでメに立ちました。この時の会場の一体感は言うまでもありません。閉会の言葉は、理事の私から、「今日、史上SAIDAIの同窓会で古くて

新しい絆が生まれました。これからも皆さんとつながって、円熟した十年後、二十年後にまた元気でおいしましう。」と述べさせていただきました。帰り際には皆様から理事に「ありがとう」の言葉をたくさんかけていただき、無事散会となりました。

結びに「教友会」事務局の皆様、ブリランテ武蔵野のスタッフの皆様、本会を成功に導いてくださった皆様、多大なるご支援に心より感謝申し上げます。



卒業二十五周年同窓会

「お陰様」と「工夫」での開催

埼玉大学教育学部昭和六十三年三月卒業生 伊藤 秀一

残暑というには厳しすぎる、気温三十五度を超えた八月十九日、ホテルブリランテ武蔵野サファイアの間で、埼玉大学教育学部昭和六十三年三月卒業生の卒業二十五周年同窓会が開催されました。

しかしながら、その暑さをものともせず、元気に四十八名が集まり、記念撮影の後、開宴しました。五月に新型コロナウイルス感染症が五類へ移行したことや感染状況に鑑み、従来の形式に近い、対面による、マスクの着用を促さない形での実施です。

ご来賓である、教友会副会長の福島正美様から、教友会の取組や十一月に行われる大学のホームカミングデーでの講演会のご案内などのお話を、埼玉大学教育学部長の堀田香織様からは、大学及び教育学部の近況や教員採用に向けての取組などについてのお話を添えてご祝辞をいただきました。

幹事は学年理事の八名が務め、当日の受付を、小学校課程国語専修の原田正則さん、野口泰明さんにお手伝いいただきました。

遠方から泊を伴ったの参加者もあり、また、卒業以来の再会という同窓生も少なからずおりました。和やかな雰囲気の中で、旧交を温め合い、途絶えることなく歓談が

続きました。

歓談の途中でのスピーチの際には、各テーブルから一名の代表を選出するよう、直前にお願ひしたにもかかわらず、どのテーブルもスムーズに決まり、各代表者は、近況とともに学生時代の懐かしさや思い出や意外なエピソードなどを語ってくれ、しばし三十五年前にタイムスリップしました。

会場となったホテルのスタッフの皆様には、事前の打合せや準備に当たって、丁寧なご助言をいただき、当日も細やかな配慮と素早い対応とで円滑な進行にご尽力いただきました。このことも思い出作りに彩りを添えてくれました。あつという間の二時間半でしたが、ぜひ五年後に予定される次回同窓会にも参加したい、という言葉も多く聞かれる中、お開きとなりました。その後は、所属教科・領域等でまとまり、二次会に繰り出す様子も見られました。

今回は、全学年を通じて、初めての卒業五X周年同窓会ということで、前例のない中、前年度開催された退職時期同窓会を参考に、手探りで準備となりました。

昨年の七月十七日の第一回を皮切りに、本番直前の八月三日まで、都合六回の学年理事による打合せ

会議を行いました。

コロナ禍ということもあり、五回はオンラインによる夕刻の開催となりました。八名の理事とも日中は県内東西南北の各地域で勤務していることもあり、一堂に会することなく打合せできたことは、かえって効率のよい方法でした。打ち合わせを重ねる中で、いくつかの課題に直面しましたが、知恵を出し合い、対応策を見出すことができました。

たとえば、参加者の集約です。案内発送後、返信を待ち、その後の集約に時間がかかると、返信締め切り日を早めに設定しなければなりません。一方で、多くの参加者を募るためには、できる限り締め切り日を後ろに延ばす必要があります。そこで、参加・不参加の回答にメールフォームを活用することで、返信と同時に集約が可能となり、回答期限を当初の予定よりかなり後に設定できました。

その他に、会計報告書については、急遽の欠席者が出る場合もあるため、事前の作成が難しく、また費用がすべて確定した後の発送は煩雑になります。そこで、会計報告のデータを同窓会開催後に、期間限定でウェブ上に掲載することで、当日の事務負担軽減やペーパーレス化を図ることができました。加えて撮影した画像のデータも同じ場所に掲載しました。

今回の準備や開催に関しての成果や反省を、次回の開催時に生かしていきたいと考えております。

なお、今後開催を予定されている学年理事様で、参考にしたいという方がいらっしゃれば、今回作成した資料等について提供させていただきますので、気兼ねなくお声がけいただければと存じます。

準備・開催に際して、ご助言・ご支援くださった金子美智雄様はじめとする同窓会事務局の皆様、貴重な資料や情報をご提供くださった、石田耕一様をはじめとする令和四年度退職時期同窓会の学年理事の皆様へ深く感謝申し上げます。次回は、所期の目標である百名の参加を願いつつ、今回の同窓会の報告とさせていただきます。



卒業二十五周年同窓会

学生時代にタイムスリップ

埼玉大学教育学部平成十年三月卒業生 岡田 大助

令和五年十月二十八日、ホテルブリランテ武蔵野において、平成十年教育学部卒業生の同窓会が行われました。卒業以来、生活や仕事の拠点を埼玉県外に移す方も多く、それぞれの地で人生を送ってきた四十六名の仲間が、二十五年度の再会を果たしました。会場のあちこちで再会を喜ぶ歓声が上がりが、会場全体が学生時代にタイムスリップしたような雰囲気となりました。

思い起こせば、ことの発端は令和四年六月十八日に行われた教友会の定期総会でした。五十嵐淳さん(中数)と私(小社)が出席し、事務局から「卒業五X周年同窓会」事業のこと、私たちの代が令和五年度に開催予定学年であることの説明を受けました。二人で相談し、卒業二十五周年同窓会の開催に向け、動くことにしました。私が学理事代表、五十嵐さんが副代表を務め、一緒に準備をさせていただく幹事として、新井飛鳥さん(中理)、川西浩之さん(小算)、岩田貴典さん(小社)、大木まみこさん(中音)、宮脇利枝さん(小

社)にご協力をいただくことになりました。準備会は五回ほど行い、その他、メールで連絡を取りながら準備を進めました。案内はがきに二次元バーコードを付け、参加の可否をオンラインで集計したり、住所が不明の方も多数いたので、幹事がつてをたどって連絡を取らせてもらったりして参加を呼びかけました。また当日、皆さんに楽しんでもらえるよう、会の内容を検討しました。新型コロナウイルス感染症が令和五年の春に五類扱いとなり、参加へのハードルが下がってはいましたが、幹事としては、どれくらい集まっていたか不安がありました。しかし、予想を超える多くの参加者に参加一同ほっとしたことを覚えて

います。当日は、司会を岩田さんが務め、開会のあいさつを宮脇さん、幹事長挨拶を私が行いました。そして教友会事務局より、教友会副会長櫻井康博様をお招きし、挨拶を頂戴しました。櫻井様からは教友会や現在の大学の様子などをお話いただきました。また、この会

の雰囲気よさについて触れていただき、私たちが楽しむ様子をとっても喜んでくださいました。その後、乾杯の発声を五十嵐さん、歓談中に川西さんが中心となってピンゴ大会を行いました。また埼玉大学公式マスコットキャラクター「メリンちゃん」が登場し、会場は大いに盛り上がりました。新井さんから閉会の言葉があり、最後に記念撮影をして会が開きとなりました。ちなみに参加者でライングループを作り、それぞれが会の中で撮影した写真画像をアップしていたいただきました。画像とともに、同窓会で仲間と語らった楽しい思い出を持ち帰っていただきました。幹事としては、この会がきっかけとなって、同期の皆さんとのお縁が再び結ばれ、繋がっていくことを願っております。最後になりましたが、同期との再会の機会を設けてくださり、同窓会を支えていただいた教友会の皆様に心より感謝申し上げます。



卒業二十周年同窓会

思い出深く、懐かしくて新しい

「二食」での同窓会

埼玉大学教育学部平成十五年三月卒業生 山田 真之

令和五年十月十四日土曜日、埼玉大学第二食堂にて、平成十五年三月卒業生の「卒業二十周年同窓会」を開催しました。

私たち学年理事は、「教友会史上初の卒業二十周年同窓会」と案内状を送りましたが、運動会や土曜公開の時期と重なり、二十余名の申込みでした。更に、インフルエンザ等の流行もあり、当日は十六名の「少数精鋭」での開催となりました。

ご来賓として、蓮見木予子副会長様にご臨席を賜りました。蓮見副会長は、私たちのために、当日資料「埼玉大学開学七十周年特集(教友第九十号)」をご用意してくださいました。そして、入学した平成十一年四月から卒業した平成十五年三月までの世間のトピックスや大学の事業を取り上げて、当時のことを思い出させてくださいました。「二〇〇〇年問題」を埼玉大学で迎えていたことは、すっかり忘れていましたし、「埼玉大学教育学部同窓会(教友会)」と名称変更があったことに、私たち

は「縁」のようなものを強く感じました。また、五年前の同窓会報告も持ちくださいました。その中の写真を見ると、確かに五年の月日が流れていたことがよく分かりました。

会が始まると、それぞれの現状や学生時代の思い出に大いに話が弾み、旧交を温めることができました。また、五年前に引き続き参加している仲間たちも、この五年でそれぞれの状況が大きく変わっていることにも驚きました。そのような中、同じような悩みを抱え、同じように毎日を頑張る仲間たちの言葉や姿には、とても勇気付けられました。

在学中は面識のなかった仲間たちも、同じ学び舎で同じ時間を過ごした同志として、話題が途切れることがありませんでした。埼玉県やさいたま市の教育に携わる仲間ばかりでなく、日本の各地で、それぞれの個性を生かした仕事や役割を果たしている仲間たちがいることが、とても心強く、元気が湧いてくる時間でした。

また、今回の会場は埼玉大学第二食堂、通称「二食」。私たちが在学していた時からハリニューアルされ、とても「洗練された」印象を受けました。けれどもそこは、間違いなく私たちが通い続けた「二食」そのものでした。そこでの思い出話にも、大きく花が咲きました。「ここから大学生活が始まった」などと話す仲間もいて、大学構内での開催はとても雰囲気の良いものとなりました。なお、大学食堂での開催を検討される際は、埼玉大学生協の担当者にお問い合わせください。日時、場所、予算など、とても丁寧に対応してください。最終的には料理を一品一品選ぶことまでできます。その上、会費を抑えることもでき、よ



いところばかりです。

さて、そのように盛り上がった同窓会は、あっという間に終焉の時を迎えました。蓮見副会長から、「楽しい仲間たちですね」とお褒めの言葉をいただき、笑顔で二次会に向かった仲間たちと、「また五年後に会いましょう」と別れました。名残惜しく、それでも再会できた喜びは格別のものでした。結びに、「卒業十五周年記念同窓会」を開催してから五年後に、こうして再会する機会をつくってくださった教友会の皆様に、深く感謝申し上げます。皆様のお力添えで、とても嬉しい時間を過ごすことができました。本会の益々のご発展をお祈り申し上げます。

なお、少額ではございますが、「埼玉大学基金」に残金を寄附させていただきますことも含め、同窓会報告とさせていただきます。皆様、ありがとうございます。

